

震災の影響、同窓会員にも

23年度 通常総会 一般会計予算案を可決

秋田高校同窓会の平成二十三年通常総会は六月二十五日、秋田市山王のシャインプラザ平安閣秋田に県内外からあわせて百十四人の会員を集めて開かれた。平成二十二年の会計決算を承認するとともに、各常置委員会の平成二十三年事業計画とそれらを盛り込んだ一般会計予算案を原案どおり可決承認した。

総会冒頭、東日本大震災の犠牲者との一年間に亡くなった物故会員に深い哀悼の意を込めて出席者全員で黙とうを捧げた。校歌斉唱に続いてあいさつに立った豊口会長は次のように述べた。

「このたびの大震災では同窓会員を含む大変多くの方々が犠牲になり、また今なお不自由な生活を余儀なくされている。心から犠牲者のご冥福をお祈りするとともに被災者にはお見舞いを申し上げます。その震災の影響もあってか今年度の会費納入状況はあまりはかばかしくない。今後とも同窓会の財政基盤確立に向けて努力したい」

豊口会長はこう述べるとともに二年後に迫った母校創立百四十周年に備えて菊谷一前校長（S44年卒）を同窓会参与に迎えたと報告した。

豊口会長はさらに続けて、在京秋田県高校同窓会連合会（秋高連）のような親睦団体を秋田市内の高校同窓会で結成して交流を深めることができないう話ほか他校から持ち上がり、今年の九月をめどに豊口会長を代表世話人とする「仮称・秋田市内高校同窓会長連絡協議会」を発足させる計画があることを明らかにした。

続いて今春湯沢高校から赴任した高橋貞校長（S47年卒）が学校の近況を報告した。それによると、今年も受験対策の一環として東大と東北大にそれぞれ五十人から百人規模の生徒が訪問体験をする。また少子化の波は母校も直撃しており、来春からさらに一学級減の七クラス（一学年二百七十五人）になるという。一方、終戦の混乱から修業

年限を一年残して卒業のやむなきに至った加藤日出男若い根っ子の会会長ら昭和二十一年卒の同窓生に対して、学校は九月二十八日の前期終業式の席上、全校生徒の前で六十五年ぶりに「幻の卒業証書」を授与する粋な計らいを決めたと述べ、出席者の共感を呼んだ。

続いて議事に移り、始めに企画・財政・名簿・広報・ホームページの各常置委員会から平成二十二年の活動報告があり、あわせて二十三年度の事業計画も提案され、いずれも意義なく原案どおり承認された。

この後平成二十二年の決算を議題とし、一般会計のほか基金会計、名簿会計、退職金積立会計、資料館整備積立会計の四特別会計を含む各決算報告書を一括審議した。その結果、収支ともに予算の執行は適正と認める、とする監査報告を満場の拍手で可決承認した。

総会はさらに平成二十三年一般会計予算案と財務規定案を原案どおり可決した。最後に任期満了に伴う役員を選任について議場に諮った結果、全役員の再任、高橋校長の新任を満場一致で承認した。新体制は次のとおり。

【会長】 豊口祐一（S34）
【副会長】 山谷浩二（S20(4)）

高橋智徳（S40）
藤盛節子（S43）
三浦廣巳（S44）

高橋 貢（S47）
以上再任
校長・新任

【監事】 久米田和太郎（S38）

鎌田 壽（S42）
高橋正毅（S45）

閉会に引き続きグローバルウォータ・ジャパン代表の吉村和就氏（S42年卒）が「世界と日本の水問題を考える」と題して記念講演を行った。

「だより90号」は特別号とし増頁

第二回運営委員会

平成二十三年第二回運営委員会は、九月二十六日（月）秋田市秋田キャッスルホテルにおいて開催された。出席者は

会長、副会長、監事、参与、各委員会委員長、事務局の計十五名であった。

会長・校長の挨拶に続いて次の案件が審議された。

1 平成二十三年後期事業計画・行事予定（案）等について

2 各委員会報告

・ 企画委員会：会則・企画委員会規定等について。
企画委員会の事業計画・当番年次・委員長・副委員長等について

・ 財政委員会：決算中間報告・今後の財政について
・ 名簿委員会：会員総数等

名簿の状況について・名簿会計中間報告・決算・会員名簿四〇号刊行について・名簿補足率の向上について

・ 広報委員会：八十九号反省・「だより九十号」は特別号として増頁で発行。
・ H P 委員会：今までの H P 維持の流れについて・今後の展開について

3 平成二十二年会計中間報告

4 母校創立百四十周年について

4の概略は次の通り。
百五十周年がメインとなるので、百四十周年は大規模にしない。百五十周年につながるための記録は残しておく必要がある、会報、式典、祝賀会、記念誌は計画したい。
今後、常置委員会、各支部の意見を聞く必要があり、平成二十四年四月前に臨時運営委員会を開催したい。